しんぶん赤旗 日曜版
日本共産党中央委員会
Webで購読申し込み 月990円(1部250円)
〒151-8586東京都渋谷区千駄ケ谷4の26の7
☎03(3403)6111 www.jcp.or.jp
©日本共産党中央委員会2026年
1952年5月30日第3種郵便物認可
2026年(令和8年) 8月16日
日刊通巻第27114号

心的外傷後ストレス障害

戦争被害PTSD

沖縄戦12歳で被弾 今も不眠を起こす

問われる高市政権の「戦争する国づくり」

戦中戦後の体験とＰＴＳＤの症状について語る大嶺宗利さん

「夜、眠れないときは、昔のことを考えだして、余計に眠れなくなる」。そう語るのは沖縄戦当時12歳だった大嶺宗利さん（93）です。1945年3月31日。「明日、米軍が上陸する」と聞き、沖縄本島中部の読谷から三晩かけて北部の国頭へ逃げました。

母、兄、弟と避難した山中には食料がなく「腹が減ってひもじい思いをした」と大嶺さん。ある夜、芋を取るため、2歳上の兄らと米軍の陣地に忍び込みました。そのとき、「バラバラ」と機関銃で一斉射撃を受け、左足を負傷。捕虜となりました。兄は逃げ延びましたが、一緒に行った数人が即死しました。

父はフィリピンに出稼ぎに行き、戦後、引き揚げの途中でマラリアにかかり、亡くなりました。

「戦争は反対。戦争が続いていたら私は生きていなかったでしょう」と大嶺さん。「おやじは10年したら帰ると約束して行ったんですけどね…。父の顔は全然覚えてない。僕が4歳のときに別れたから」

精神科医の蟻塚亮二さんは長年、沖縄戦の民間被害者を診察してきました。大嶺さんが体験した母子での避難や食糧難、銃撃され捕虜となった恐怖、予期しない父との死別は「家族崩壊、不幸、喪失という巨大なトラウマ（心の傷）」だと指摘。「そういうもろもろが全部原因になって、ＰＴＳＤ（心的外傷後ストレス障害）を形成する」と語ります。

蟻塚さんは大嶺さんの不眠について「頭が過覚醒状態にある」と言います。「脳が過敏な状態のときにトラウマ刺激が侵入してくるので、夜なら目が覚める。昼なら、知らないうちに戦争の場面を考えていた、という人もいます。恐怖体験が過去形にならないから、現在の自分に飛び込んでくるのです」

「何がトラウマ刺激になるかは、人によって違います。花火や掃除機の音が、空襲や爆撃機を思い出させて、恐怖や体の震え、フラッシュバックなどのトラウマ反応をきたす」と話します。

戦争は「終結したら終わり」ではありません。住民を巻き込み、県民約12万人の命を奪った沖縄戦は、生き延びた人たちの精神も破壊し、生涯にわたって苦しみを与えています。その痛みを再び生みだしていいのか―。高市早苗政権が「戦争する国づくり」を進めているいま、戦争ＰＴＳＤという隠れた戦争被害を考えます。

本吉真希記者

14、15面で特集

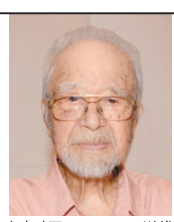
歴史に向き合う

沖縄県公文書館
収容所へ向かう途中、年上の住民にサポートしてもらう足をけがした少年＝1945年6月19日撮影（沖縄県公文書館所蔵）

今号は8月9日・16日合併号 次の発行は8月23日号

ひと 上坂 樹里さん 36

森山 未來さん
青木 柚さん
ドラマ「笹まくら」29

山田良治さん 31
大野 倫さん
社会を変える「楽しむ力」
ヘイト反対 北海道で市民立つ 32
高市「減税」2年後には大増税 35
性暴力、二次加害防ぐ社会の役割 30
アート展2選 16
投球過多に警鐘 11

元自民県議・副議長 金城 重正さん 2

沖縄に再び戦禍を呼び込まないために

「発酵大学生」の絶品みそラーメン 17

特別障害者手当申請あなたも 18 19
熊本地震 長引く避難 4 5
核禁止へ世界の運動交流 6 7
古謝美佐子さん 34

原爆俳句の生々しさに心ゾワゾワ
夏井いつきさん 3